

令和3年10月31日(日)
主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会
共催:(株) ストーリー
「こぼんはうすさくら川口青木教室」

特別支援が必要な子の学習支援の話

- 国語の長文理解や算数の文章問題が苦手な子への支援の仕方
- 作文や日記、読書感想文がうまく書けない子へのパターン指導
- 宿題に取り組めない、後回しにする子への声のかけ方

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長
岐阜大学・中部学院大学講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

1

『アクティブラーニングが合わない子』

《従来の学習》
決められたことをやれば→解決できる
▲状況が少し変わっただけで対応できない子

《現在の学習》※**アクティブラーニング**
様々な“解き方”を学ぶ
→状況に合った解き方で解決できる
・しかし特別支援が必要な子は対応できない！

2

そもそも宿題として内容が正しいか？
☆宿題の本来の目的は……
『学校で習ってできるようになったことを
家庭でも繰り返し行って定着させること』

しかし、それでは早く終わってしまうので保護者が『もっと出してくれ』という。すると先生は、『もっと長い時間机に座っていられる宿題を！』となる……
×ノートいっぱい漢字練習しましょう
×日記1ページ →面白くない

3

《学習支援のポイント》
心理学的に“やる気”の出る時から考える
①楽しい 面白い やってみたい
②できる わかる 上達する
③ほめられる 認められる ご褒美がある
④怖くない 安全 安心

学習について①は、難しい！
②と③と④を改善することならできる！
『できることから』 『×をつけない』
『しからずほめる』の3つがポイント

4

支援の原則① 『できることからの出発』

《通常の教育》
「できないこと 新たなことへの
チャレンジ教育」
今までにできた経験・成功体験が多いから進んで取り組むことができる。

《特別支援教育》
「できることからの出発の教育」
成功体験を積み重ねて自信をつけさせる

5

支援の原則② 『カレーライス理論』

力をつけるなら、遅れないようにするなら、
学習は「捨てる勇氣」をもつことが大切
※先生は全てをやらせたい→できない・遅れる

～カレーライス理論とは？～
1 ラッキョ 2 ライス 3 カレールー
いらぬ 半分可 絶対必要
本当に必要な学習内容だけをと取り組ませる
→学校との連携が大切

6

作文指導のポイント ※パターンで教える

題 今日楽しかったこと
□今日楽しかったことは三つあります。
□一つ目は・・・
□二つ目は・・・
□三つ目は・・・
□その中で一番楽しかったのは・・・です。
□わけは、・・・・・・・・・・だからです。
□そのことをお母さんに話したら
「・・・・・・・・・・」
と言いました。
□僕は・・・・・・・・・・と思いました。
□明日も楽しいことがたくさんあるといいな。

7

読書感想文や将来の面接にも応用可能

読書感想文(題 ○○を読んで)
□○○を読んで面白かったことは三つあります。
□一つ目は・・・□二つ目は・・・□三つは・・・
□その中で一番面白かったのは・・・です。
□わけは、・・・・・・・・・・だからです。
□そのことをお母さんに話したら
「・・・・・・・・・・」と言いました。
□僕は・・・・・・・・・・と思いました。
□次に不思議に思ったことも三つありました。

面接・願書

□僕がこの会社を選んだ理由は三つあります～

8

字を書く時のポイント

①マスを大きくして→できそうという気持ちを出す
②繰り返し書く量を減らして→意欲をもたせる
③うすく鉛筆で手本を書いてなぞらせることで
→失敗しない安心感をもたせる。
100年前の寺小屋の授業を行っていませんか？
今は、パソコンの時代です。
ならば・・・・・・・・
×はねやはらい、書き順をたたく書かせる時代
◎文字のつくりが合っていることが大切
☆文化庁2016年「常用漢字表の字体・字形に関する指針(報告)」文字の細部に必要以上の注意が向けられ・・・漢字の正誤が決められている。

9

算数の文章問題を解くポイント

①『はじめの数はいくつ?』
②『うしろの数はいくつ?』
③『何算の問題?』
④『答えの単位は何?』
(例:問題)りんごが5個ありました。3個食べました。残りは何個ですか?
りんごが5個ありました。3個食べました。残りは何個ですか?

5 - 3 = 2 答え 2個

10

算数の文章問題を解くポイント

①『はじめの数はいくつ?』
②『うしろの数はいくつ?』
③『何算の問題?』
④『答えの単位は何?』
(例:問題)りんごが10個ありました。2個ずつ仲良く分けると何個になりますか?
りんごが10個ありました。2個ずつ仲良く分けると何個になりますか?

10 ÷ 2 = 5 答え 5個

11

パターンを増やしていく

①もらう・拾う・飛んでくる→増えると『たし算』
②落とす・食べる・あげる →減ると『ひき算』
③何倍・五つ分・・・・・・・・→『かけ算』
④なかよく分ける・同じ数分ける→『わり算』

※ほぼ上記のやり方で8割近い問題を解くことができる

100点めざして、基礎的な問題までも理解できなくなってしまうケースがある。ならば、2割の変わった問題を捨てて、基礎的な文章問題を解けるよいにすればよい。

12

捨てる文章問題の例

①クッキーを5枚食べました。今日はクッキーを3枚食べました。合わせて何枚食べたでしょう。

※“食べた”なのにたし算?→混乱する

②今朝りんごが3個あります。昨日は5個ありました。何個食べたでしょう。

※“3-5”?→引けない?

▲(通常の教育) 基礎→応用→発展→テスト

◎(特別支援教育) 基礎→基礎→基礎→テスト

※基礎を三倍することで定着する70点でOK

13

長文理解のさせ方

“長文理解”と思うから楽しくない

※“長文理解”は、『宝探し』と考えると遊ぶ気持ち

①必ず答えは問題の近くに隠れている

※まずは、問題文の前後にある

②学年が進むにつれて問題文から答えになる部分が離れ行くから難しくなる

▲その学年の長文は答えの距離が遠く探せない

◎まずは、取り組む長文の学年レベルを下げて、答えを見つけることができるものに取り組む

14

長文理解のさせ方

出典(株)学書「ウインター錬成」国語小1より

では、実際に小学校1年生の典型的な長文問題を解いてみましょう。

①基礎問題

②少しレベルが上がると・・・

▲順番に解かないと気が済まない習慣は正す

◎まずは、できる問題から取り組むことがポイントとなってくる。

15

文章問題だけではない!

計算問題でも

“アクティブラーニング”が
子どもの理解を妨げる例

小学校1年生

『くり上がりのたし算』

『くり下がりのひき算』

16

(例)小1の『くり上がりのあるたし算』

9 + 3 の教え方 (後ろの数が小さい)

①9個のブロックと3個のブロックを
実際に描いて考えよう

②ブロックを動かす図を書いてみよう

③数を図のなかに書き入れて
“さくらんぼ図”をかいてみよう

④式を立てて計算しよう

17

(例)小1の『くり上がりのあるたし算』

9 + 3 の教え方 (後ろの数が小さい)

『3を1と2に分ける』

加数分解の方法

9 + 1 で10 10と2で12

後ろの3をさくらんぼ図にして分ける

18

(例)小1の『くり上がりのあるたし算』

3 + 9 の教え方 (前数が小さい)

- ① 3個のブロックと9個のブロックを実際に描いて考えよう
- ② ブロックを動かす図を書いてみよう
- ③ 数を図のなかに書き入れて“さくらんぼ図”をかいてみよう
- ④ 式を立てて計算しよう

19

(例)小1の『くり上がりのあるたし算』

3 + 9 の教え方 (前の数が小さい)

『3を2と1に分ける』

被加数分解の方法

1 + 9で10 2と10で12

前の3をさくらんぼ図にして分ける

20

(例)小1の『くり上がりのあるたし算』

6 + 5 や 5 + 6 の教え方

加数分解・被加数分解どちらの解き方でもよい

3種類の方法が子ども達を混乱させる。結果としてどのやり方も身につかない

21

(例)小1の『くり上がりのあるたし算』

《結論》どんな時にも『後ろをさくらんぼにして分けて、10といくつで計算すれば良い』

『加数分解』だけで解く

9 + 3 = 9と1と2

3 + 9 = 3と7と2

5 + 6 = 5と5と1

一つのやり方で『どんな問題も解ける』
3倍かけて基礎的な解き方を定着させる

22

(例2)小1の『くり下がりのあるひき算』

12 - 9 の教え方 (ひく数が大きい)

- ① 12個のブロックを実際に描いて考えよう
- ② 9個のブロックをどこから引くか?
- ③ 残った2個をどのように処理するか
- ④ 式を立てて計算しよう

23

(例2)小1の『くり下がりのあるひき算』

12 - 9 の教え方 (ひく数が大きい)

- ① 10の塊から9を引いて1
- ② 1個と残った2個を合わせて3個
- ※ 10から9を引いて2をたす
- ③ 引いてからたして答えを求めるので

“減加法”といいます

24

(例2)小1の『くり下がりのあるひき算』

12 - 3 の教え方 (ひく数が小さい)

- ① 12個のブロックを実際に描いて考えよう
- ② 3個のブロックをどこから引くか?
- ③ 式を立てて計算しよう

25

(例2)小1の『くり下がりのあるひき算』

12 - 3 の教え方 (ひく数が小さい)

- ① 2から3のうちの2を引いて1
 - ② 10から残った1個を引いて9
- ※ 12から2を引いて10。
残りの1個を10から引いて9
- ③ 引いてから更に引くので

“減々法” といいます

26

(例2)小1の『くり下がりのあるひき算』

12 - 5 や 12 - 6 の教え方

減加法でも・減々法でもどちらの解き方でもよい
3種類の方法が子ども達を混乱させる。結果としてどのやり方も身につかない

27

(例2)小1の『くり下がりのあるひき算』

《結論》どんな時にも10から引いて、残りをたず“減加法”でやれば良い

- 13 - 9 = まず 10 - 9 で 1 → 1 + 3 で 4
12 - 3 = まず 10 - 3 で 7 → 7 + 2 で 9
14 - 5 = まず 10 - 5 で 5 → 5 + 4 で 9

一つのやり方で『どんな問題も解ける』
3倍かけて基礎的な解き方を定着させる

28

おまけ・・・これから使えます
正しい原稿用紙の書き方について・・・

まず、例文をお手本を見ないで原稿用紙に書いてみましょう。

- ① タイトルの書き方
 - ② 学年・名前の書き方
 - ③ 「 」の書き方・・・等など
- ▲ 正しい書き方を習っていないケースが多い
◎ まずは、正しい書き方のお手本を見て、書き直しがないように指導してあげましょう。

29

ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ① 「特別支援教育って何？」
 - ② 「特別支援が必要な子どもの進路の話」
- WAVE出版

→ 書店・アマゾン等で購入可能！



ご清聴ありがとうございました。

30